

第2次由布市環境基本計画 (概要版)



令和8年3月
由布市

環境基本計画の概要

計画策定の趣旨

由布市は、由布岳、鶴見岳、黒岳などの雄大な火山群や、城ヶ岳、花牟礼山などの美しい山々に囲まれた大分川水系の集水域に立地し、さまざまな自然の恵みを受けています。

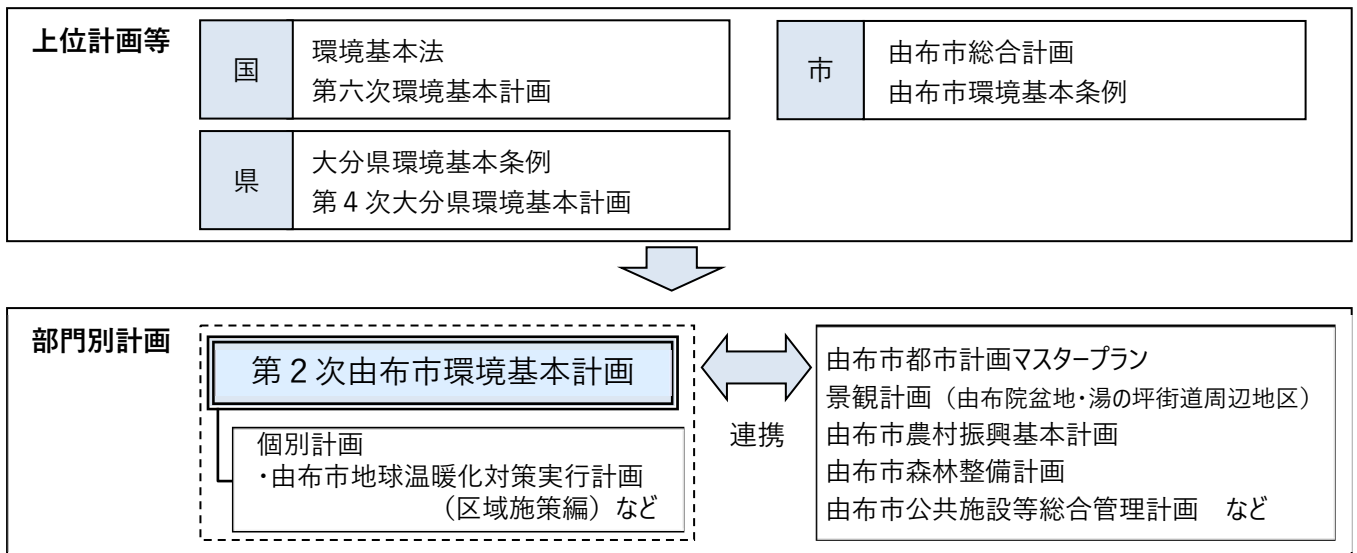
大分川とその支川は、豊かな水量によって農林水産業や発電等の各種産業用水、生活用水となり人々の暮らしを支えてきました。日本名水百選の男池湧水群と、それを育む原生林、山下池・小田の池の湿原植生、そして由布川峡谷などは、水と緑がもたらす優れた自然環境と独特の自然景観を形成しています。火山の恩恵である温泉は、由布院温泉・湯平温泉など市内全域に分布し、観光・保養や日々の暮らしにも利用されています。私たちの先人は、豊かな自然と結びついた暮らしをとおり、伝統芸能である神楽など、さまざまな歴史や文化を育んできました。私たちの暮らし、産業、経済は、本市の豊かな環境を大切にしながら、その恵みを活用することで成り立っています。

しかし現代においては、私たちの日常生活や事業活動が環境負荷となり、地球温暖化や廃棄物の不法投棄や水質汚濁、開発による自然の減少、生物多様性の損失など、さまざまな問題を引き起こしています。人の営みがなくなったことで、身近なものであった里山や牧野などの環境も変化しています。

由布市は、市民等、事業者、市そして交流者がそれぞれの役割を自覚し、協働して取り組むことにより、持続可能な社会を実現させ、豊かで美しい環境を未来の子どもたちへ引き継ぐことを決意し、由布市環境基本条例を平成 25 年 3 月に制定しました。

第 2 次由布市環境基本計画は、環境基本条例の基本理念に基づいて、どのような施策を進めていくのかを示した行動計画として策定したものです。

計画の位置づけ・役割



計画の期間

計画の期間は、2026（令和 8）年度から 2035（令和 17）年度までの 10 年間とします。ただし、計画の進捗状況や市民ニーズの変化、社会情勢や国内外の環境に関する変化などに対応するため、必要に応じて計画を見直します。

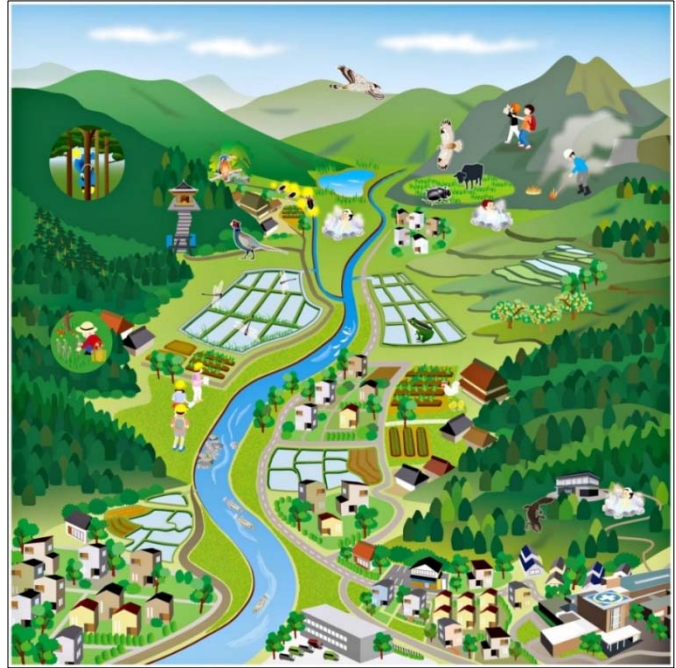
由布市の環境像

第三次由布市総合計画では、由布市が目指すまちづくりの目標を「人とつながり、未来を創る住みよき日本一のまち・由布市」と定めています。

上記の目標をふまえて、由布市の将来の環境像を、第2次計画においても次のように継続して設定します。

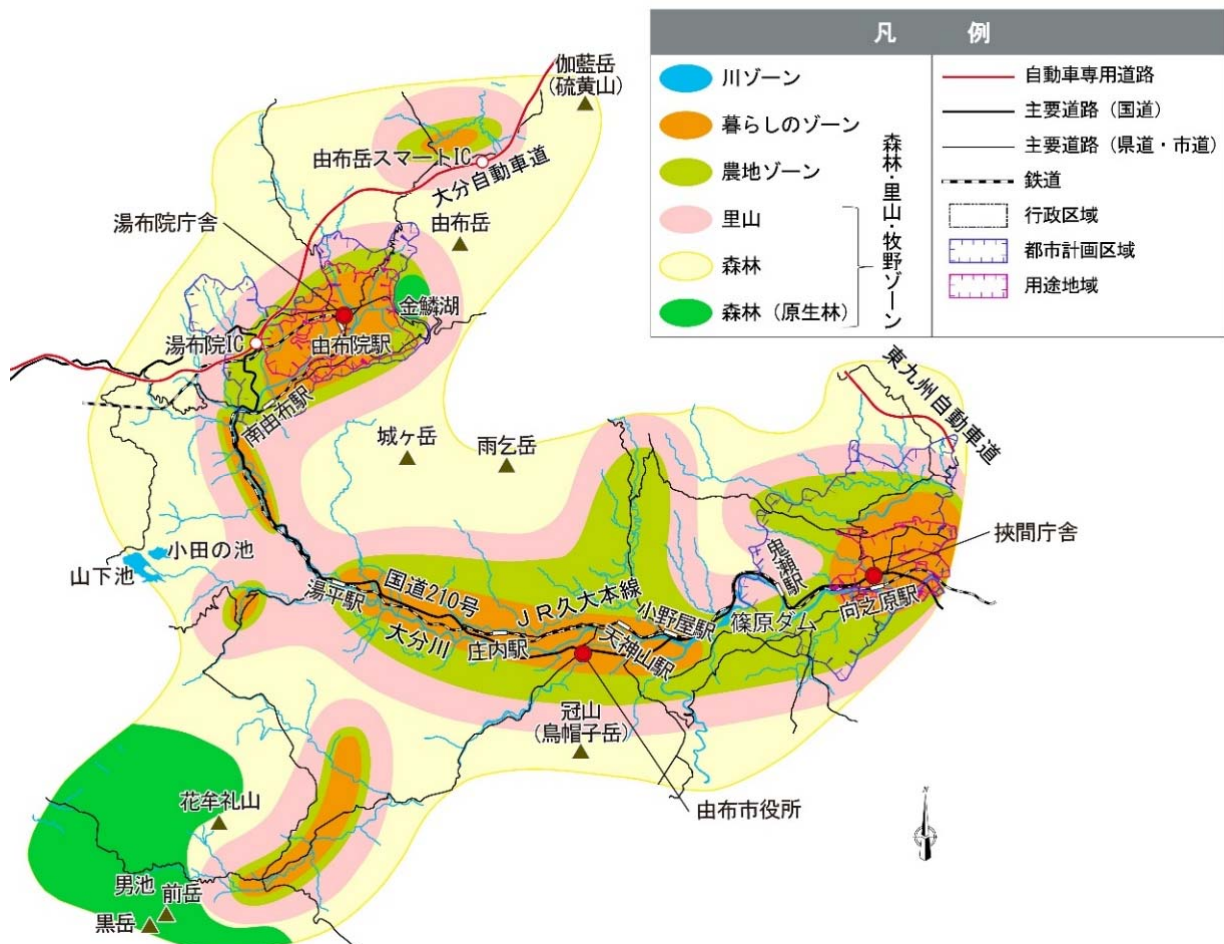
水・緑・人が輝き続けるまち・由布市

水と緑に育まれた由布市の豊かな自然のもとで、人々（交流者も含む）が生き生きと活動できる環境を次の世代へと継承していくまちを実現することで、住み続けたいまち、住みたいまち、訪れたいまちを引き続き目指します。



環境目標（プロジェクト）の考え方

由布市を、川、森林・里山・牧野、農地、暮らしの4つのゾーンに分け、ゾーンごと（ゾーン間の連携も行う）で施策を進めるとともに、由布市全域で取り組む共通の施策を進めることにより、地域横断（横串）の計画として取組を進めていきます。



施策体系

本計画では、由布市全体の環境を保全・再生・創造するために、**1** 川、**2** 森林・里山・牧野、**3** 農地、**4** 暮らしの4つのゾーンを軸とするプロジェクトと、市全域での対応が必要な**5** 地域資源、**6** 環境教育・学習、**7** 資源・エネルギーの3つの共通プロジェクトを合わせた計7つのプロジェクトを進めていきます。

環境像	環境目標（プロジェクト）	基本施策
水・緑・人が輝き続けるまち・由布市	1 大分川水系の水を清らかにし、水辺を守り、親しもう 【川ゾーン】	<ul style="list-style-type: none"> ①水環境の現状を調べ、あるべき姿を考え、実践しよう ②水源を守り、水を浄化しよう ③川や湖沼の水をきれいにしよう ④水辺の生き物の多様性を守ろう ⑤水と親しめる空間や機会をつくろう
	2 多様な機能を持つ、森林、里山、牧野の風景を守り、育てよう 【森林・里山・牧野ゾーン】	<ul style="list-style-type: none"> ①原生林を守ろう ②多様な機能を発揮できる森林をつくろう ③環境に配慮しながら林業を育成しよう ④山の風景を守ろう ⑤森と触れ合う場や機会をつくろう ⑥人の営みによりつくられる里山や牧野を守ろう ⑦里山や牧野の生物の多様性を守ろう
	3 食や生き物を支える農地とその風景を守り、育てよう 【農地ゾーン】	<ul style="list-style-type: none"> ①こころ落ち着く農村風景を守ろう ②生物多様性に配慮した農業を推進しよう ③スローフードを推進しよう ④農業を身近に感じよう
	4 快適で環境負荷の少ない暮らしを創造しよう 【暮らしのゾーン】	<ul style="list-style-type: none"> ①良好な生活環境を創造しよう ②開発は、環境負荷を最小限にしよう
	5 由布市のお宝を発見し、守り、育てよう【共通】	<ul style="list-style-type: none"> ①由布市のお宝をみんなで見つけて、活かそう
	6 これからの環境のことを考えよう【共通】	<ul style="list-style-type: none"> ①みんなで環境を守ろう ②みんなで環境のことを学ぼう
	7 限りある資源やエネルギーをもったいない精神で、かしく使おう【共通】	<ul style="list-style-type: none"> ①エネルギーや資源を大事に使おう ②ごみを減らそう リサイクルしよう ③温泉を大事に使おう

環境目標 1. 大分川水系の水を清らかにし、水辺を守り、親しもう 【川ゾーン】



由布市を流れる大分川の中上流域の水質は、環境基準からみると、上から2番目のA類型に指定されており、比較的良好であるものの、市民からは魚やホタルの減少、泡の発生などの問題が寄せられています。

健全な水循環を確保するために、現在の問題点や状況を整理・把握していくとともに、どのような水環境であってほしいかというイメージを市民・行政で共有する必要があります。森林など水循環に関わりがある分野について多面的に調査・研究を行うとともに、市民や事業者・学識経験者が有している情報を整理・把握し、国・県の協力も仰ぎながら、適切な対応を行う必要があります。

このような調査結果等を活かしつつ、市民等、事業者、行政で水環境のあるべき姿やイメージを探り、共有し、対応策を検討・実施していきます。

健全な水循環の実現は、一朝一夕にはなしえない大きな課題ですが、市民の財産である河川・湧水・温泉などの水資源を支えるため、水環境への関心を高め、協働体制のもと、一步一步着実に取組を進めていく必要があります。その結果として、安全・安定的に水資源が利用でき、また多様な生物の生息・生育環境が保全・再生できます。

基本施策

- ①水環境の現状を調べ、あるべき姿を考え、実践しよう
- ②水源を守り、水を浄化しよう
- ③川や湖沼の水をきれいにしよう
- ④水辺の生き物の多様性を守ろう
- ⑤水と親しめる空間や機会をつくろう

計画指標

計画指標	現状値	中間値 2030 (令和12)年度	目標値 2035 (令和17)年度
汚水処理人口普及率	84.3%	91.0%	96.0%
市内河川の水質環境基準達成状況	91.7%	95.0%	95.0%
「水環境」に対する市民満足の割合	41.1%	43.0%	45.0%
「河川や湖沼の水質保全」に対する市民満足の割合	24.7%	27.0%	30.0%



名水の滝



宮川における外来水草除去活動



子どもたちによる川の生物学習

環境目標 2. 多様な機能を持つ、森林、里山、牧野の風景を守り、育てよう

【森林・里山・牧野ゾーン】



原生林は、数十年から数百年、数千年という長い時間をかけて成立してきたものであり、希少種や固有の動植物などが生息・生育する場としても重要であるため、適切に保護する必要があります。

きれいな空気や豊かな水をつくり、さまざまな生き物を育み、自然災害から住民の命を守ることができるような森林を保全・再生するとともに、森林の景観を大切にしながら、その自然と親しむことができる環境を整備します。

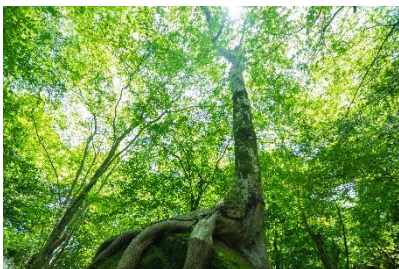
また、里山や牧野への人の関わりを増やし、里山や牧野の多様な自然やその風景を守り、育てていくための取組を進めます。

基本施策

- ①原生林を守ろう
- ②多様な機能を発揮できる森林をつくろう
- ③環境に配慮しながら林業を育成しよう
- ④山の風景を守ろう
- ⑤森と触れ合う場や機会をつくろう
- ⑥人の営みによりつくられる里山や牧野を守ろう
- ⑦里山や牧野の生物の多様性を守ろう

■ 計画指標

計画指標	現状値	中間値 2030 (令和 12) 年度	目標値 2035 (令和 17) 年度
わんぱくサマーチャレンジ参加人数	20 人	20 人	20 人
「多様な機能を発揮できる森林の保全・整備」に対する市民満足割合	21.6%	24.0%	28.0%
「山の風景の保全」に対する市民満足割合	33.3%	35.0%	37.0%



黒岳周辺の原生林



間伐作業



牧野を維持するために行われる野焼き

環境目標 3. 食や生き物を支える農地とその風景を守り、育てよう【農地ゾーン】



農地は、食料生産の場としての役割を果たしているだけでなく、雨水の貯留による洪水や土砂崩れの防止、水源涵養、生物多様性保全、美しい農村風景の形成など大きな役割を果たしており、その恵みは、由布市の市民等、事業者、市だけでなく、交流者にも及んでいます。

しかし、農業の近代化による生物多様性の減少、担い手不足による農地の荒廃、開発の進行による農地の減少などにより、さまざまな農地の機能が失われつつあります。

また、両生類や魚類、水生昆虫には、水田とその周辺のため池や水路を利用しながら生息する種があるように、農地は生態系を支える重要な機能を有していますが、由布市における農地の生物多様性の状況は十分に把握されていません。

そこで、関係機関と連携して農地の生物多様性の状況を把握するとともに、環境配慮型の水路の推奨、有機農業・環境保全型農業の推進、スローフード・地産地消の推進、農業の担い手を確保する取組の推進、農業と触れ合う機会の創出、農村風景を守るための開発の規制・誘導などにより、農業・農村の多様な機能を保全・再生します。

基本施策

- ①こころ落ち着く農村風景を守ろう
- ②生物多様性に配慮した農業を推進しよう
- ③スローフードを推進しよう
- ④農業を身近に感じよう

■ 計画指標

計画指標	現状値	中間値 2030 (令和 12) 年度	目標値 2035 (令和 17) 年度
学校給食に係る市内産農産物使用率 (金額ベース)	22.1%	30.0%	35.0%
食文化 P R 活動開催数及び郷土料理提供食数	17 回	28 回	35 回
新規就農者数	7 名	10 名	10 名
農泊者数	200 人	250 人	300 人
「スローフード、地産地消の推進」に対する市民満足の割合	24.7%	27.0%	30.0%
「農業後継者の育成、農業体験機会の創出」に対する市民満足の割合	13.8%	18.0%	24.0%



平石地区の棚田



中山間地域に生息するトノサマガエル



多面的機能支払交付金による活動

環境目標 4. 快適で環境負荷の少ない暮らしを創造しよう【暮らしのゾーン】



健康で安心な暮らしを守るために、河川水質の維持・改善や観光地周辺のポイ捨て等の対策、騒音や大気汚染の公害対策など、さまざまな生活環境対策を進めます。また、環境と地域の経済が調和しながら持続可能な社会をつかっていくためには、開発などによる環境への負荷をできるだけ少なくしていく必要があることから、地域の自然や景観に配慮しながら計画的な土地利用を進め、快適な暮らしを創造します。

基本施策

- ①良好な生活環境を創造しよう
- ②開発は、環境負荷を最小限にしよう

■ 計画指標

計画指標	現状値	中間値 2030（令和12）年度	目標値 2035（令和17）年度
不法投棄啓発実施数	6回	10回	10回
地域猫活動団体登録数	67団体	80団体	90団体
地域清掃・ボランティア清掃参加人数	延べ1,500人	延べ1,500人	延べ1,500人
「良好な生活環境の創造」に対する市民満足割合	25.8%	28.0%	31.0%
「開発時の環境負荷の低減」に対する市民満足割合	13.5%	17.0%	22.0%



ポイ捨て等防止重点地域



市民参加による道路沿線の花植え活動

環境目標 5. 由布市のお宝を発見し、守り、育てよう 【共通】



由布市には、豊かな自然と先人の営みにより育まれた風景、多様な生物、湧水、歴史・文化、地質遺産、温泉などの地域資源があります。さらに、交流者などの視点で見ると、私たちが気づいていない由布市の魅力があるかもしれません。

これらの由布市の環境資源を発見・紹介しながら、市民等、事業者、交流者、市の協働で守り、育てていきます。また、環境資源を活用して子どもたちへの体験活動や環境教育を進めます。

基本施策

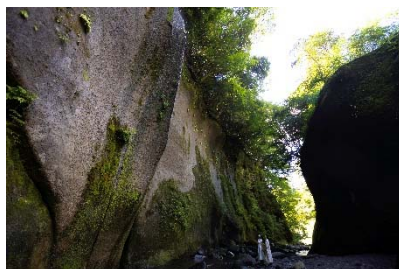
①由布市のお宝をみんなで見つけて、活かそう

■ 計画指標

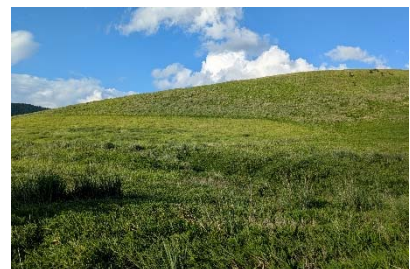
計画指標	現状値	中間値 2030 (令和 12) 年度	目標値 2035 (令和 17) 年度
わんぱくサマーチャレンジ参加人数 (再掲)	20 人	20 人	20 人
ふるさと探検部参加人数	9 人	15 人	20 人
キリシタン南蛮文化こども親善大使 人数	1 人	2 人	4 人
アドベンチャーツアー等アクティビティ 体験者数	240 人	300 人	350 人
「地域資源の保全と活用」に対する 市民満足の割合	18.1%	21.0%	27.0%



由布岳と田んぼ



由布川峡谷



塚原高原の牧野



アソコギリソウ



男池での自然学習



専門家による水辺の生物学習会

環境目標 6. これからの環境のことを考えよう 【共通】



由布市の環境を保全・再生するために、由布市で生活、活動するみんな（市民等、事業者、交流者、市）が、他市の事例や手法を研究し、環境基金の創設やボランティア活動に取り組みます。また、みんなが環境を大切に考え、環境に配慮したふるまいができるよう、環境教育・学習や環境活動を進めていきます。

基本施策

- ① みんなで環境を守ろう
- ② みんなで環境のことを学ぼう

■ 計画指標

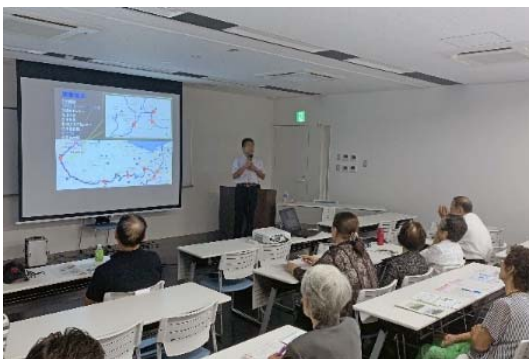
計画指標	現状値	中間値 2030（令和12）年度	目標値 2035（令和17）年度
環境教育・環境学習の実施件数	40回	45回	50回
環境教育・環境学習の参加人数	延べ800人	延べ900人	延べ1,000人
「環境保全活動の推進」に対する市民満足割合	19.0%	22.0%	28.0%
「地域等が実施する環境保全活動に参加・協力している」市民満足割合	44.8%	47.0%	49.0%



金鱗湖美化プロジェクト（外来水草の除去活動）



庄内ふるさと祭りでの廃油石けん・エコたわし等の配布啓発活動



「地球の水、大分の水環境」をテーマに開催された環境講演会



小学生を対象とした希少生物の学習会

環境目標 7. 限りある資源やエネルギーをもったいない精神で、かしく使おう 【共通】



もったいない精神で、ごみの減量化やリサイクルの取組、節電などソフト面での省エネルギーや建物の断熱化、電動車の利用、省エネルギー型設備・機器への更新などハード面での省エネルギーの取組を進めます。再生可能エネルギーについては、地域の持続的発展に寄与すること、環境に調和していることをその導入条件とし、温泉熱や小水力エネルギーなど地域資源の有効活用の検討を進めます。また、温泉資源は、限りある資源という認識のもと、適正利用を進めていきます。

これらの取組により、持続可能な社会の実現と脱炭素社会の構築に貢献します。

基本施策

- ①エネルギーや資源を大事に使おう
- ②ごみを減らそう リサイクルしよう
- ③温泉を大事に使おう

なお、基本施策①及び②の取組の詳細及び計画指標については、別途由布市地球温暖化対策実行計画（区域施策編）に示します。

■ 計画指標

計画指標	現状値	中間値 2030 (令和 12) 年度	目標値 2035 (令和 17) 年度
「温泉資源の適正利用」に対する市民満足割合	23.3%	26.0%	28.0%



育児用品のリサイクル交換会
「くるくるリサイクル」



公共施設に設置している
太陽光発電システム（由布院小学校）



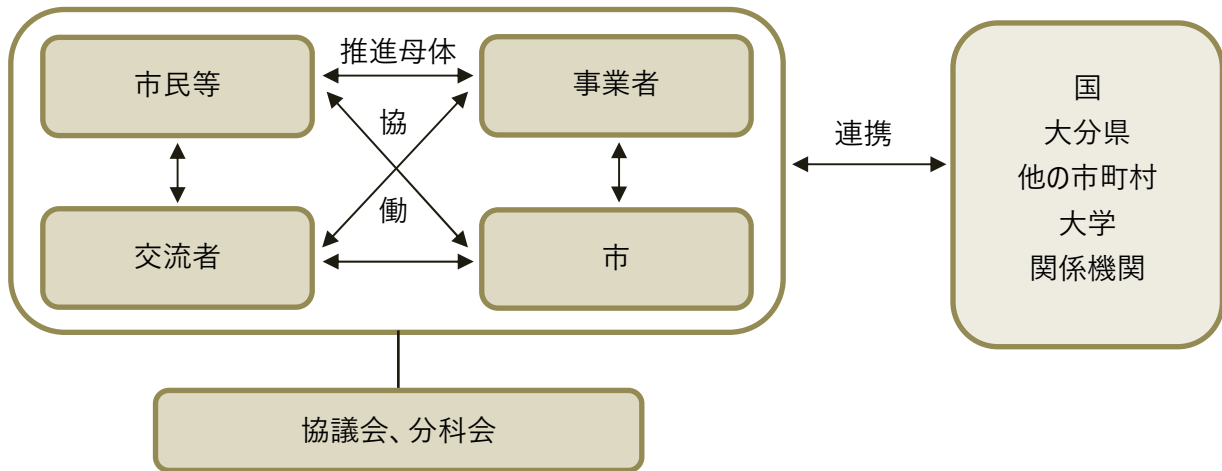
市内の共同温泉（岳本地区）



広域ごみ処理施設の完成イメージ（2027年10月供用開始予定）

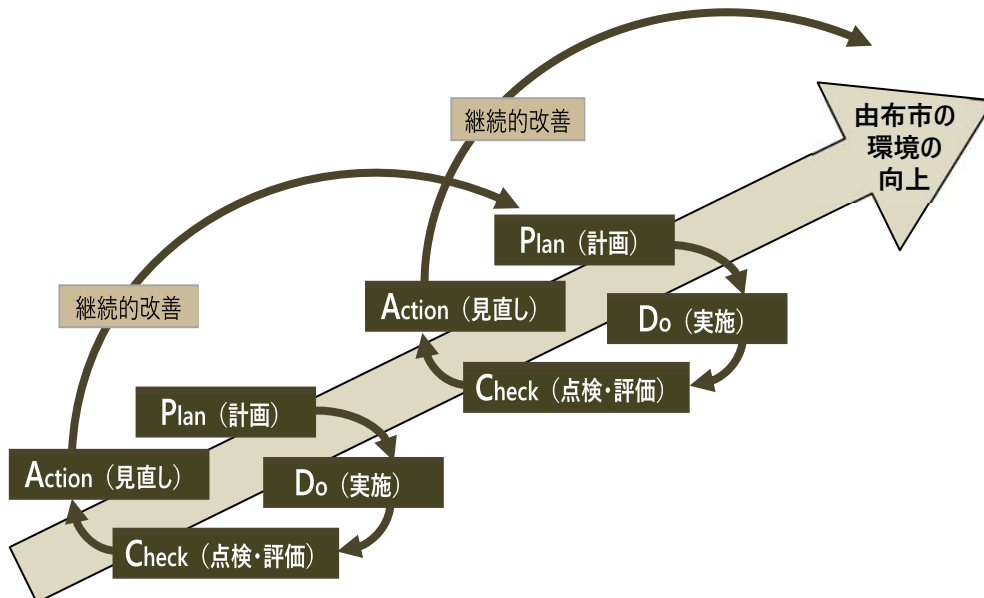
計画の推進体制・進行管理

市民等、事業者、交流者及び市の4つの主体が推進母体となって、国、大分県、他の市町村、大学、関係機関と連携しながら進めていきます。



本計画は、環境マネジメントシステム の考え方である、Plan（計画）、Do（実施）、Check（点検・評価）、Action（見直し）を繰り返し行う、PDCA サイクルで進めていきます。PDCA サイクルで本計画の進捗状況の点検・評価・見直しを適切に行うことにより、継続的に由布市の環境の向上を図ります。

計画の進行管理は、環境審議会及び環境基本計画推進庁内連絡会議が行い、施策の実施状況や計画指標の達成状況を点検・評価し、その内容をふまえて次年度以降の施策の見直しや新たな施策の検討を行うとともに、必要に応じて計画を見直します。



第2次由布市環境基本計画（概要版）

発行：由布市 環境課

令和8年3月

TEL：097-582-1310 FAX：097-582-1361

URL：https://www.city.yufu.oita.jp/